

午 後

問 題

◎ 指示があるまで開かないでください。

注 意 事 項

1 試験時間等

13 時 30 分 ～ 15 時 50 分

午後の試験問題数は 80 問で、解答時間は 2 時間 20 分です。

2 解答用紙への氏名の記入

解答用紙には、すでに「受験番号(●塗りつぶし含む)」「カナ氏名」が印刷されています。
「受験番号」と「カナ氏名」が正しいかどうか確認して、「カナ氏名」の下欄に、漢字で氏名を記入してください。

(例) 受験番号 P 0 1 3 — 4 5 6 7 8 の場合

精神保健福祉士国家試験 (午後) 解 答 用 紙

会 場	福祉大学	
1	第 1 教室	
氏 名	カナ	フクシ タロウ
	漢字	

	P	0	1	3	—	4	5	6	7	8
受 験 番 号	●	●	○	○	●	○	○	○	○	○
	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
	③	③	●	③	③	③	③	③	③	③
	④	④	④	④	●	④	④	④	④	④
	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	●	⑤	⑤	⑤	⑤
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	●	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	●	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	●	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

3 解答方法

(1) 出題形式は五肢択一を基本とする多肢選択形式となっています。各問題には 1 から 5 ま
で 5 つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを〔例 1〕では 1 つ、〔例 2〕
では 2 つを選び、解答用紙に解答してください。

〔例 1〕 問題 201 次のうち、県庁所在地として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 函館市
- 2 郡山市
- 3 横浜市
- 4 米子市
- 5 北九州市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、③ を塗りつぶして、

問題 201 ① ② ● ④ ⑤ としてください。

〔例 2〕 問題 202 次のうち、首都として、正しいものを 2 つ選びなさい。

- 1 シドニー
- 2 ブエノスアイレス
- 3 上海
- 4 ニューヨーク
- 5 パリ

正答は「2 と 5」ですので、解答用紙の

問題 202 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、② ⑤ を塗りつぶして、

問題 202 ① ● ③ ④ ● としてください。

(2) 採点は、光学式読取装置によって行います。解答は、鉛筆を使用し、○の外にはみだ
さないように濃く塗りつぶしてください。なお、シャープペンシルは問題ありませんが、
ボールペンは使用できません。

良い解答の例……………●

悪い解答の例……………○☒ ☒ ☒ ☒ ☒ (解答したことになりません)

(3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消して
ください。鉛筆の跡が残ったり、☒ のような消し方などをした場合は、訂正したことにな
りませんので注意してください。

(4) 〔例 1〕の問題に 2 つ以上解答した場合は、誤りになります。〔例 2〕の問題に 1 つ又は
3 つ以上解答した場合は、誤りになります。

(5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないように特に注意して
ください。

4 その他の注意事項

- (1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。
- (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

精神疾患とその治療

問題 1 「平成 27 年版自殺対策白書」(内閣府)に基づく自殺に関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 自殺死亡率は米国、英国と比べ低い。
- 2 自殺者数は 40 歳代から 60 歳代の男性で全体の 4 割近くを占める。
- 3 自殺は 20 歳から 39 歳までの死因の第 2 位である。
- 4 自殺者数でみると自殺の原因・動機としては経済・生活問題が最も多い。
- 5 自殺者数は 1998 年(平成 10 年)から 2014 年(平成 26 年)まで年間 3 万人を超えている。

問題 2 脳や神経に関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 小脳には橋と延髄が含まれる。
- 2 脊髄は末梢神経系に含まれる。
- 3 視床下部は平衡機能をつかさどる。
- 4 視床は自律神経系の統合中枢である。
- 5 末梢神経系には体性神経系と自律神経系がある。

問題 3 次のうち、ICD-10 に基づく「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(F 4)」に含まれる疾患として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 チック障害
- 2 適応障害
- 3 双極性感情障害
- 4 統合失調症
- 5 血管性認知症

問題 4 認知症又は認知症をきたす疾患に関する次の記述のうち、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 アルツハイマー型認知症では、手指の振戦、筋固縮、無動、姿勢反射が目立つ。
- 2 レビー小体型認知症では、記憶障害が主症状で緩徐に進行する。
- 3 クロイツフェルト・ヤコブ病では、幻視が先行し動作が緩慢になり前傾姿勢が目立ってくる。
- 4 パーキンソン病では、ミオクローヌスの出現とともに急速に認知症が進行する。
- 5 ピック病では、健忘より性格変化と社会機能の低下が特徴である。

問題 5 次のうち、解離性(転換性)障害の症状として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 運動失語
- 2 小脳失調
- 3 けいれん
- 4 左右失認
- 5 視覚失認

問題 6 次の精神疾患と症状の組合せのうち、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 血管性認知症 —— せん妄
- 2 うつ病 —— 誇大妄想
- 3 統合失調症 —— 健忘
- 4 強迫性障害 —— パニック発作
- 5 全般性不安障害 —— 情動脱力発作

問題 7 次のうち、質問紙法による心理検査として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ロールシャッハテスト
- 2 ベンダーゲシュタルト検査
- 3 バウムテスト
- 4 MMP I (ミネソタ多面人格テスト)
- 5 改訂長谷川式簡易知能評価スケール

問題 8 向精神薬とその副作用に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 抗不安薬 ————— アカシジア
- 2 定型抗精神病薬 ————— 筋弛緩
- 3 非定型抗精神病薬 ————— 身体依存
- 4 炭酸リチウム ————— 甲状腺機能亢進症^{こうしん}
- 5 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) — 賦活症候群

問題 9 次のうち、認知療法の用語として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 転移
- 2 催眠
- 3 自動思考
- 4 絶対臥褥^{がじょく}
- 5 自由連想

問題 10 次のうち、「平成26年患者調査」(厚生労働省)において、入院患者数が最も多い精神疾患として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 うつ病
- 2 知的障害(精神遅滞)
- 3 てんかん
- 4 統合失調症
- 5 アルコール依存症

精神保健の課題と支援

問題 11 発達と心理に関する理論や学説と、それらと関係が深い人物に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 発生的認識論 ————— エリクソン(Erikson, E.)
- 2 対人関係論 ————— ハヴィガースト(Havighurst, R.)
- 3 成熟優位説 ————— サリヴァン(Sullivan, H.)
- 4 心理社会的発達理論 ————— ピアジェ(Piaget, J.)
- 5 愛着(アタッチメント)理論 — ボウルビィ(Bowlby, J.)

問題 12 要保護児童対策地域協議会に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 都道府県の児童相談所に設置されている。
- 2 児童福祉法の改正(2004年(平成16年))により法的に位置づけられた。
- 3 要保護児童の児童養護施設への入所措置を決定する。
- 4 協議会の職務に関して知り得た秘密を漏らした場合の罰則規定がある。
- 5 養育里親の認定に関する審議を行う。

問題 13 家庭内の問題を相談する機関とその役割に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 配偶者暴力相談支援センター — 被害者の自立促進のための情報提供・助言
- 2 ひきこもり地域支援センター — 閉じこもり状態にある高齢者の要介護認定
- 3 地域包括支援センター — 認知症を有する者に対する専門医療の提供
- 4 児童家庭支援センター — 障害児の保育所への入所の審査・決定
- 5 発達障害者支援センター — 軽度の情緒障害を有する児童に対する入所治療

問題 14 職場のメンタルヘルス対策に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ラインによるケアでは、保健所や精神保健福祉センターなどの外部の機関を活用して労働者の相談対応を行う。
- 2 過労死等防止対策推進法では、職場におけるストレスチェックの実施を事業者に義務づけている。
- 3 産業保健総合支援センターでは、産業保健に関する相談への対応や産業保健関係者を対象とした研修を行う。
- 4 「厚生労働省の手引き」では、休業中の労働者の主治医が職場復帰支援プランを作成することとされている。
- 5 健康増進法では、事業者に対してセクシャル・ハラスメント防止のための措置を講ずることを義務づけている。

(注) 「厚生労働省の手引き」とは、「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」のことである。

問題 15 災害時の精神保健活動に関する用語とその説明に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 災害派遣精神医療チーム
(DPAT) ————— 都道府県や政令指定都市によって組織される専門的な研修・訓練を受けたチーム
- 2 サイコロジカル・ファースト
エイド(PFA) ————— 精神科医による専門的精神療法
- 3 災害医療におけるトリアージ ————— 緊急事態ストレスを経験した人への心理的介入法
- 4 災害時こころの情報支援センター — 都道府県が設置する情報センター
- 5 デブリーフィング(debriefing) — 不安や恐怖に対する薬物療法

問題 16 精神作用物質の乱用対策及び援助に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ハーム・リダクションとは、刑務所での服役の代わりに、裁判所の監督下で治療施設に通所させる処遇システムである。
- 2 危険ドラッグとは、麻薬及び向精神薬取締法に基づいて厚生労働省が指定し、その販売が規制される薬物を指す。
- 3 AA(アルコールリクス・アノニマス)とは、アルコール依存症を抱えた人が治療のために入所する民間リハビリテーション施設のことである。
- 4 ブリーフ・インターベンションとは、多量飲酒などの問題飲酒者の飲酒量を減らすことを支援する方法の一つである。
- 5 CAGE(ケージ)とは、10項目から構成される、問題飲酒の早期発見を目的としたスクリーニングテストである。

問題 17 厚生労働省の患者調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 医療施設に入院している患者には面接による調査を行う。
- 2 患者を対象とする前向きコホート調査である。
- 3 統計法に基づく調査の一つである。
- 4 DSM-5に基づいて疾病分類を行っている。
- 5 国勢調査に合わせて実施される。

問題 18 次のうち、精神医療審査会の事務を行う機関として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保健所
- 2 精神保健福祉センター
- 3 市町村保健センター
- 4 福祉事務所
- 5 家庭裁判所

問題 19 精神保健に関する略称とその日本語表記の組合せとして、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 WPA —— 世界精神医学会
- 2 NSF —— 精神保健世界行動計画
- 3 DALY —— 障害調整生命年
- 4 WFMH —— 世界家庭医機構
- 5 QOL —— 精神健康調査票

問題 20 mhGAP 介入ガイド(mhGAP Intervention Guide)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健専門家のいない保健医療の場で使用する目的で作成された。
- 2 世界各国の精神保健資源に関する基礎データを、統一的な様式で集約及び記述することを旨として作成された。
- 3 災害や紛争後の精神保健的支援の在り方について、国際機関や国際NGOの代表による議論に基づき作成された。
- 4 自殺が公衆衛生上の重要な課題であるとの認識を高め、各国の包括的な自殺予防戦略の実施を支援する目的で作成された。
- 5 アルコールの有害使用の課題を整理した上で、その低減に向けた政策の選択肢と介入策を提示する目的で作成された。

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 精神科病院を退院したAさんは、次第に昼夜逆転した生活となり、バランスの取れた食事もできていない状況にあった。精神科病院のB精神保健福祉士は、受診時にAさんと相談室で面接を行い、生活のリズムを整えることがAさんのために必要だと考え、デイケアの利用を勧めた。しかし、Aさんは、「デイケアには行きたくない。自分は退院しているし、やりたいことがある」と語った。B精神保健福祉士はAさんの思いを聞きつつも、Aさんの生活に不安を感じ、これからどのように関わっていけばよいか悩んだ。

次のうち、B精神保健福祉士が抱く倫理的ジレンマとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライエントの利益と所属機関の利益
- 2 秘密保持とプライバシー
- 3 自己決定とパターンリズム
- 4 バウンダリーとクライエントの利益
- 5 専門職的価値と個人的価値

問題 22 日本のソーシャルワークの形成過程に関する人物と事項の組合せとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 仲村優一 ―― 生活臨床
- 2 浅賀ふさ ―― 医療ソーシャルワーク
- 3 竹内愛二 ―― 社会事業と精神衛生
- 4 村松常雄 ―― 治療共同体
- 5 窪田暁子 ―― 福祉文化論

問題 23 U精神科病院には、病状が安定した後も入院を継続している精神障害者が多数在院しており、地域移行が早急な課題となっている。しかし、地域移行の重要な社会資源であるグループホーム設立に対して、地域住民からの反対があった。その対応のため、U精神科病院のC精神保健福祉士と管轄する保健所のD精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)は関係者に呼びかけ、関係機関で協議の場をもつこととなった。その中で、精神障害者が安心して生活できる環境を整えることの必要性が確認された。C精神保健福祉士は、精神障害者への理解を促すために、地域行事での交流や地域住民を対象としたメンタルヘルス講座の実施を提案した。

次のうち、C精神保健福祉士が意図したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルプランニング
- 2 ソーシャルエクスクルージョン
- 3 ソーシャルエンタープライズ
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 ソーシャルリサーチ

問題 24 精神保健福祉士が関わる活動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 従業員支援プログラム(EAP)は、従業員の心の健康への配慮を行い、生産性を高めるための活動である。
- 2 アルコールリハビリテーションプログラム(ARP)は、アルコール依存症の離脱症状の出現時に行われる。
- 3 個別職業紹介とサポート(IPS)は、職業前評価や訓練を行ってから就労につなげる活動である。
- 4 包括型地域生活支援プログラム(ACIT)は、多人数の精神保健福祉士で構成されるチームで行う。
- 5 専門職連携教育(IPE)は、福祉、保健、医療に関わる各専門職の技術結集による相談援助である。

問題 25 精神保健福祉士が行う相談援助活動に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 クライアントが参加するセルフヘルプグループの活性化を図るために、グループの管理運営を主導する。
- 2 クライアントが抱えている生活課題を解決するために、プロセスよりも結果を重視した支援を行う。
- 3 クライアントの生活障害の程度を見極めるために、その生活障害を固定的なものとして捉えたアセスメントを行う。
- 4 クライアントの病気がストレスにより再燃することを防止するために、コーピングスキルの獲得を支援する。
- 5 クライアントの主体性を尊重するために、人間関係や社会との関係ではなくクライアント個人に視点を絞った支援を行う。

問題 26 次の記述のうち、2013 年(平成 25 年)の「精神保健福祉法」改正として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 都道府県による精神科救急医療体制の確保について規定された。
- 2 精神医療審査会の委員の構成について、精神障害者の保健又は福祉に関する学識経験者が規定された。
- 3 医療保護入院等のための移送制度が創設された。
- 4 一定の要件に該当する精神科病院に対して、任意入院者の病状等の報告を求めることができるようになった。
- 5 「精神分裂病」の呼称が「統合失調症」に変更された。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 27 次の記述のうち、精神障害者の権利擁護を行う際の調整機能の説明として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 クライエントのニーズと制度を結び付けるために、仲介・媒介することである。
- 2 法制度の改正・改革に向けた活動や、新たなサービスづくりを行うことである。
- 3 クライエント自身に、自らのニーズと権利に気づきをもたらすことである。
- 4 自分の権利主張が難しい状況にあるクライエントを支援することである。
- 5 多様な立場の人々に対して、精神障害に関する理解を求めることである。

問題 28 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うコミュニティソーシャルワークの説明として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 精神障害者に対して、最適なサービスを迅速かつ効果的に提供できるようサービスの調整を行うことである。
- 2 集団活動の経験を通して、精神障害者個人の生活問題への対処能力を高める援助を行うことである。
- 3 生活課題を抱える精神障害者や家族への個別援助と、生活環境等の改善やまちづくりを並行して行うことである。
- 4 精神障害者が直面する社会的不平等に対して、地域住民の組織化など集合的なアクションで解決を図ることである。
- 5 多様な専門職が専門性をいかしながら、共通の目標の基に連携・協働して精神障害者への援助を行うことである。

問題 29 精神科医療チームにおける多職種連携のモデルや機能に関する次の記述のうち、正しいものを 2 つ選びなさい。

- 1 インターディシプリナリ・モデルは、他のモデルより課題達成のために多職種間で役割を横断的に共有することが多い。
- 2 マルチディシプリナリ・モデルは、階層構造の中で医師の指示・指導の下に各職種がそれぞれの専門性を発揮する。
- 3 トランスディシプリナリ・モデルは、階層性はないが各職種の役割はおおむね固定されている。
- 4 メンテナンス機能は、目的の一致、役割と責任の相互確認及び情報共有を基本にチームの維持を図ることである。
- 5 タスク機能は、チームの中に生じる誤解や葛藤に対応するコンフリクトマネジメントをすることである。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。

〔事 例〕

ある日、精神保健福祉センターに勤務する E 精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)(以下「E 相談員」という。)のもとに、F さん(35 歳、女性)が相談に訪れた。来所目的を尋ねると、「夫のことで困っているんです。誰にも話せないと思っていましたが、裁判でお世話になった弁護士にこちらを紹介され、勇気を出して相談に来ました」と小さな声で話した。夫の G さん(35 歳)は、薬物所持で起訴されて執行猶予の判決を受け、現在は仕事を辞めて自宅にいるという。E 相談員は、「夫は相談と一緒に来ようともしないし、どうしてよいか分からない」と涙を流す F さんの話を聞いた。(問題 30)

F さんは、「これからどうなるか分からないけれど、夫のために、妻としてできることは頑張りたい」と話し、「二度と薬物に手を出さないよう、監視するのが妻の責任だと思います」と厳しい表情を見せた。このような F さんに対して、E 相談員は相談を継続することと、精神保健福祉センターで開催している心理教育を中心とした家族教室への参加を提案した。(問題 31)

それから約 3 か月が経過したある日、F さんは夫の G さんを伴って相談に訪れた。E 相談員が G さんに来所の理由を尋ねると、「妻が非常に心配しているので、安心させるために仕方なく来ただけです。精神科病院では薬物依存症と診断されましたが、自分は病気だと思っていません。もう二度とクスリは使用しない自信もあるので、相談の必要は感じていないです」とぶっきらぼうに答えた。

F さんが家族教室に参加したり、E 相談員との相談を繰り返す中で G さんも徐々に心を開き、「早く以前のように働いて妻を安心させたいけれど、今仕事を始めるとストレスがたまって、またクスリに逃げてしまう気がする。最近、気が付いたらクスリのことを考えているときがあり、正直このままやめ続ける自信がない」と複雑な思いを口にするようになった。(問題 32)

問題 30 この段階の F さんに対する E 相談員の対応として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 失業に伴う経済的な困窮を避けるため、早く就職させるよう伝えた。
- 2 これからのことを一緒に考えたいので、もう少し話を聞かせて欲しいと伝えた。
- 3 直接話を聞きたいので、本人を連れてくるよう伝えた。
- 4 再犯の可能性が高いので、早く離婚の手続きをとるよう伝えた。
- 5 薬物依存症という病気であり、治療が必要であると伝えた。

問題 31 次の記述のうち、E 相談員が F さんに家族教室への参加を提案した意図について、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 G さんを監視するための具体的な方法を学んでもらう。
- 2 F さんが共依存という疾患にかかっていることを気付いてもらう。
- 3 妻としての責任をより強く自覚してもらう。
- 4 イネイブラーとして G さんを支える方法を学んでもらう。
- 5 G さんの主体性を大切にしたい関わり方について考えてもらう。

問題 32 この時点で、E 相談員が G さんに行う助言として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 更生保護施設に入所して薬害教育を受けること。
- 2 公共職業安定所(ハローワーク)に通い求職活動を開始すること。
- 3 保護観察所で専門的処遇プログラムを受けること。
- 4 ナルコティクス・アノニマス(NA)に参加すること。
- 5 ナラノン(Nar-Anon)に参加して 12 のステップを学ぶこと。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題2)

次の事例を読んで、問題33から問題35までについて答えなさい。

〔事例〕

Hさん(26歳、男性)は、融通が利かず冗談を真面目に受け取ってしまい、場に合った行動をとれないため、人付き合いが苦手であった。対人関係でうまくいかないことはあったが大学を卒業し、就職は志望通りの会社に決まった。配属先では、パソコンでの作業が中心で、自分のペースで仕事を進めることができた。上司Jさんは、Hさんに仕事について丁寧に説明し、本人が納得するやり方で仕事ができるように配慮していた。Hさんの良さをJさんが評価していたこともあり、粘り強い姿勢や集中力は、同僚たちからも一目置かれるほどだった。Hさん自身も仕事にやりがいを感じていた。(問題33)

就職4年目に大きな変化が起こった。新しくKさんが上司として赴任し、部下の一人一人に目標を考えさせ、臨機応変に動くように求めた。また、Hさんは初めて新入社員の教育担当係となり負担が増えた。自分でどうしてよいか判断に困ったHさんは、ささいなミスが続き、不眠にも悩まされるようになった。Hさんの変化に気付いた同僚が、かつての上司Jさんに連絡した。心配したJさんは、Kさんに相談した上でHさんから話を聞き、一緒に職場の健康管理センターを訪れた。落ち着きなく、「すぐにでも退職したい」と訴えるHさんに、L精神保健福祉士が初回面接を行った。

その後、Hさんは、家族に付き添われVクリニックを受診し、広汎性発達障害の診断を受け、休職をすることになった。休職中もHさんは、L精神保健福祉士との面接を継続していたが、Hさんは、「何をしてもうまくいかない」と繰り返し訴えていた。(問題34)

Hさんは、Vクリニックの発達障害の治療プログラムに参加し始めた。休職から4か月が過ぎ、「自分で考え臨機応変に動くのは苦手だが、手順が分かる仕事は人より得意だ」と話すようになった。主治医から復職許可も出て、笑顔が見られるようになったHさんは、「そろそろ仕事に戻りたい」とL精神保健福祉士に語った。(問題35)

問題 33 この時点で、Hさんが職場で経験していた状態として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ストレスコーピング
- 2 モデリング
- 3 クライシスインターベンション
- 4 ワークビリティ
- 5 ナチュラルサポート

問題 34 L精神保健福祉士が、この時点で行う援助活動として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ネットワーキング
- 2 ピアサポート
- 3 エンパワメント
- 4 ケアマネジメント
- 5 コンサルテーション

問題 35 L精神保健福祉士が、この時点でHさんに行う提案として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 リワークプログラムに参加して、さらに訓練を続けてみましょう。
- 2 もっと他に自分に合う仕事がないか、探してみましょう。
- 3 もう少し休む期間を延ばすよう、お願いしてみましょう。
- 4 職場で配慮してもらいたいことを、自分で整理してみましょう。
- 5 Kさんの異動願いを、人事部に相談に行きましょう。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次のうち、精神保健福祉に関する法律と関連する事項の組合せとして、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神病患者監護法 ――― 都道府県立精神病院の設置
- 2 精神病院法 ――― 私宅監置の廃止
- 3 精神衛生法 ――― 任意入院の創設
- 4 精神保健法 ――― 精神医療審査会の設置
- 5 「精神保健福祉法」 ―― 精神障害者保健福祉手帳制度の創設

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 37 地域活動支援センターで実習中の学生のMさんは、多くの利用者と接し、困っていることなどを話してもらえるような言葉がけを考えた。Mさんは、「私は、何事にも消極的で、優柔不断なところがあります。あなたはどうですか。また、生活の中で、うまくできないことは何ですか」と一人一人に聞いて回った。

その日の振り返りで、Mさんは、実習指導者である所長から次のような指摘を受けた。「積極的に利用者に話しかける姿勢は評価できます。しかし、障害や障害のある人をどのように捉えるかという点で、あの言葉がけはどうでしょうか。一度考えてみてください」

次のうち、所長がMさんに考えてもらいたかった精神障害者支援の理念や方法として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 インフォームドコンセント
- 2 ストレングスモデル
- 3 レジリエンス(resilience)
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 アドボカシー

問題 38 Aさん(28歳, 男性)は, 統合失調症により母親の同意の下にW精神科病院に医療保護入院している。最近, 幻聴や妄想などの陽性症状が消退しつつある。昨日, Aさんが出席した退院支援委員会が開かれ, Aさんは3か月後の退院に向けて入院を継続することになった。ところが今日になって, AさんはB退院後生活環境相談員(精神保健福祉士)に, 「母親からもまだ退院は早いと言われているけど, やはり本当はすぐに退院したい。昨日は, なかなか言い出せなかった」と訴えてきた。

次の記述のうち, B退院後生活環境相談員のAさんへの対応として, 適切なものを2つ選りなさい。

- 1 Aさんの考えを委員会のメンバーに伝えることができることを説明する。
- 2 主治医に代わって病状を詳しく説明する。
- 3 自分で退院について母親を説得するように説明する。
- 4 委員会の決定どおり3か月退院を待つように説明する。
- 5 退院請求の制度について再度説明する。

問題 39 精神科リハビリテーションに関する次の記述のうち, 適切なものを2つ選りなさい。

- 1 専門職の介入を最大限に行って生活能力の改善を図る。
- 2 能力の向上だけでなく, 自信を取り戻すことを助ける。
- 3 障害があっても, その人らしい生き方の実現を目指す。
- 4 医学的リハビリテーションを経て, 他のアプローチを行う。
- 5 どのような環境にも適応できるように本人の技能を開発する。

問題 40 X障害者就業・生活支援センターのC就業支援担当者(精神保健福祉士)は, Dさん(23歳, 男性)から相談を受けた。Dさんは18歳で統合失調症の診断を受け, 1年前から週3日デイケアに通所している。車が好きで自動車整備士になるのが夢だったDさんは, 最近, 「自動車整備士は難しくても, せめてガソリンスタンドで働いてみたい」と強く思うようになったという。主治医に相談すると, 「働くための支援が受けられれば考えてもよいのではないか」と言われ, デイケアのスタッフからは就労継続支援事業所の利用を勧められた。Dさんは, 「就労継続支援事業所の作業は車と関係ないのでやる気が起きない。ガソリンスタンドのアルバイトに応募しようと思うが, いざとなると自信がない。でも, やっぱり僕は働きたい」と訴えた。

この時のC就業支援担当者の対応として, 適切なものを1つ選りなさい。

- 1 アルバイトの前に, 就労継続支援事業所の利用を勧めた。
- 2 ガソリンスタンドは難しい仕事なので, 他の仕事を探すよう助言した。
- 3 自分でガソリンスタンドのアルバイトを見つけるよう促した。
- 4 体験実習ができるガソリンスタンドを紹介した。
- 5 デイケアに毎日通所できた時点で, 援助を開始すると伝えた。

問題 41 精神科リハビリテーションの評価と計画策定に関する次の記述のうち, 正しいものを1つ選りなさい。

- 1 長期目標は, 具体的で現実的なものを選別して設定する。
- 2 計画には, 障害の理解に向けた周囲への働きかけも含まれる。
- 3 資源評価には, 本人の問題解決技能の評価も盛り込む。
- 4 機能評価は, 本人ができていないことに焦点化する。
- 5 計画の目標は, 日常生活動作(ADL)の改善におく。

問題 42 次の記述のうち、相談支援事業所における精神保健福祉士が行うアセスメントとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 支援契約を結ぶ。
- 2 利用できるサービスを計画する。
- 3 働く場所探しに同行する。
- 4 サービス提供後の経過を観察する。
- 5 住む場所の希望を聞く。

問題 43 入職して3年目のE精神保健福祉士は、長期入院患者が多い精神療養病棟に最近異動となった。新たに担当することになったFさん(51歳、男性)は、入院して10年が経過しており、生活能力は低下しているが病状は比較的安定している。Fさんが長期入院となったのは、母親の病気の治療などで、退院の受け入れ条件が整わなかったからである。早速、E精神保健福祉士がFさんと面接すると、退院には消極的であった。両親とも面接したところ、年金暮らしで楽ではないが、いつでも自宅に迎え入れたいとのことであった。

この時点でのE精神保健福祉士の援助として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院に向けて、家族と日程調整に入った。
- 2 生活保護の申請について主治医に指導を求めた。
- 3 Fさんと両親と一緒に心理教育を受けることを提案した。
- 4 週に2、3回は病棟を訪問し、Fさんと面接することにした。
- 5 Fさんの病室を居心地の良い空間に変えた。

問題 44 Gさんは、病状が不安定であったために精神科病院に長期入院となっていたが、最近は落ち着いている状態が続いている。Gさんの両親は既に他界し、唯一の親族である妹は遠方に住んでいる。

地域移行支援の依頼をGさんから受けた、N市の指定一般相談支援事業所に勤務する新人H精神保健福祉士は、Gさんの地域移行支援計画を立てるために助言を受けることにした。

H精神保健福祉士が受けた次の助言のうち、コンサルテーションとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 N市保健センターの保健師から、精神障害者の訪問看護の利用の可能性を聞いた。
- 2 Gさんの支援を共に行うピアサポーターから、過去の事例について聞いた。
- 3 上司である事業所管理者から、自分の役割と責任について聞いた。
- 4 経験豊富な精神保健福祉士から、地域移行の実践の報告を聞いた。
- 5 Gさんの妹から、支援への協力を得られるか聞いた。

問題 45 次のうち、相談援助機関とそこに配置されている専門職の組合せとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センター ————— 障害者職業カウンセラー
- 2 地域生活定着支援センター —— 社会復帰調整官
- 3 基幹相談支援センター ————— 相談支援専門員
- 4 地域障害者職業センター —— 精神保健福祉相談員
- 5 ひきこもり地域支援センター —— 精神障害者雇用トータルサポーター

問題 46 精神保健福祉ボランティアの主な役割に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 相談支援専門員の指導を受けて、訪問による相談援助活動を担う。
- 2 市民に精神障害についての正しい情報を知らせる。
- 3 精神障害者の地域における交流の機会を増やす。
- 4 学んだ知識を活用して、精神障害者の職場を開拓する。
- 5 地方公共団体の専門職不足を補う。

問題 47 ノーマライゼーションに立脚した精神保健福祉士の支援に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 一人暮らしを希望する精神障害者の服薬アドヒアランスを高めるために、心理教育の受講を促した。
- 2 高齢者が内科疾患で入院していた際に物忘れが始まったので、精神科病院への転院の手続きを行った。
- 3 家族と同居している精神障害者がグループホームで生活できるように、生活訓練を受けてみるよう伝えた。
- 4 精神障害者が認知の歪みを改善し適応的な行動がとれるように、認知行動療法を受けるよう勧めた。
- 5 発達障害者の聴覚過敏の対処のために耳栓を使用できるように、職場の了解を得た。

問題 48 社会資源に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 インフォーマルよりフォーマルな社会資源を優先する。
- 2 物的より人的な社会資源を重視する。
- 3 精神保健福祉士自身を社会資源として利用する。
- 4 利用者自身が持つ能力や意欲を社会資源として活用する。
- 5 精神保健福祉士が決定した社会資源を使用する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

〔事 例〕

P 市の保健福祉センターに勤務する J 精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)の下に、K さん(18 歳, 男性)の母親が相談に訪れた。一人息子の K さんが大学に入学したものの、「大学に行く気になれない」と言って自室にひきこもるようになったという。母親が大学に行くように言っても、K さんは、「構わないでほしい」と言うばかりで、何度も言うとイライラして声を荒げるため、がちが明かない。父親は、「お前が甘やかして育てたから、弱い性格になってしまった。放っておけばよい」と言うので、夫婦で言い合いが繰り返された。母親は相談できる相手もなく途方に暮れていたところ、たまたま P 市の広報で精神保健相談について知ったという。母親によると、K さんは元々人との交流が苦手な友達少なく、家で読書をして過ごすことが多かった。中学生の頃には同級生にいじめられたと言って登校できない時期があった。今回は大学を休み始めた直後、「初日のガイダンスの時、どの教職員も自分の方だけを見て話をした。教職員と学生が話し合っている内容や素振りから、みんなが共謀して自分のことを監視していることが分かる」と話した。こうしたことから、母親は K さんがこのまま大学に行けなくなるのではないかと、とても心配し、最近は夜もよく眠れないほどであるという。(問題 49)

J 精神保健福祉相談員は母親からさらに詳しく事情を聞いた上で、今後の対応について提案を行った。(問題 50)

その翌日の午後、母親から J 精神保健福祉相談員に電話があった。「私が昨日保健福祉センターに相談に行ったことを息子が知り、『自分のことを相談するなんて聞いていなかった。どんな相談をしたのか』と強く聞いてくるのです。私はうまく答えられなくて困ってしまったので電話しました。今、息子が私のそばにいますので直接話してほしい」と依頼された。(問題 51)

問題 49 この時点で、J 精神保健福祉相談員が最も留意すべきこととして、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 K さんが対人関係のストレスから不登校を繰り返す人であること。
- 2 K さんが精神疾患に罹患している可能性があること。
- 3 母親の過保護がもたらした親子関係の問題があること。
- 4 K さんが大学に通学しないことで顕在化した夫婦の問題があること。
- 5 K さんが大学に通学しないことに対し、母親が過剰に反応していること。

問題 50 次の記述のうち、J 精神保健福祉相談員が行った提案として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 「ご両親そろって一緒に相談したいと、お父様にお伝えください」
- 2 「保健所から移送制度の説明を受けてください」
- 3 「民間の相談機関が主催する、親子のコミュニケーションの在り方を勉強する研修に参加してください」
- 4 「大学の担当者に、必要な環境調整を依頼してください」
- 5 「精神保健福祉センターに、ひきこもりの人の家族会を紹介してもらってください」

問題 51 この場面での J 精神保健福祉相談員の最初の対応として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 K さんと電話口で直接話すことは控え、母親に、「相談内容はお母さんから隠さずに伝えることが大切です」とアドバイスする。
- 2 K さんに電話を代わってもらい、「お答えするには、個人情報保護の観点から、手続きをとる必要があります」と話し、手続きの方法を伝える。
- 3 K さんに電話を代わってもらい、「あなたの承諾なく、あなたのことに関してお母さんから相談を受けましたが、不適切でした」とわびる。
- 4 K さんに電話を代わってもらい、母親と話した内容には触れず、「あなたのことが心配なので一度お会いしたい」と面会を希望する。
- 5 K さんに電話を代わってもらい、「あなたのことも含め、お母さんのいろいろな心配事について相談に乘りました」と回答する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

〔事 例〕

L さん(62 歳, 男性)は幼い頃に両親を亡くし, 20 歳代前半で統合失調症を発症した。精神科病院の入院を何度か経て Q 市の Y 救護施設に入所してから, 既に 20 年が経過している。L さんは目立った症状もなく, 施設の日課に沿って生活し, 料理プログラムでは手際の良さを見せた。一方, プログラムとして食材の購入に出かけた際に, 購入リストにある食材が見つからなくても店員に尋ねることができないことが目立った。また, プログラム以外では自室で好きな音楽を聴いて過ごすことが多く, 他の利用者との交流はほとんどなかった。Y 救護施設の M 生活指導員(精神保健福祉士)は, L さんには地域で暮らす力があると思い, 面接を重ねた。そして, L さんが面接に慣れてきた時点で, 今後の希望や地域で暮らすことについて投げかけてみた。しかし, L さんは, 「施設を出て生活するなんて考えたこともない」「外の人みんな冷たい」「特にしたいこともない」と言うばかりだった。(問題 52)

ある日, M 生活指導員は, 長期入院を経てアパートで暮らすピアサポーターを施設に招き入所者との懇談会を開催した。懇談会に参加した L さんは, ピアサポーターの話を真剣な面持ちで聞き入っていた。(問題 53)

その後, L さんは漠然と地域で暮らしたいと思うようになり, 面接でその思いを表現するようになった。そこで, M 生活指導員は L さんの思いを実現するために, Y 救護施設が確保したアパートの空き室での宿泊体験を提案した。宿泊体験の結果, L さんは買物やゴミ出しがうまくできないこと, お金を計画的に使うのが難しいこと, 日常の小さな困りごとを相談できる人がそばにいないと不安を感じるということが分かった。

M 生活指導員は, L さんが施設を退所し, 地域での生活に必要な支援体制を整えるべく, 関係者に呼びかけてケア会議を開催した。(問題 54)

問題 52 この時点の M 生活指導員の L さんに対する働きかけとして, 適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 「一人で自炊ができるよう, プログラムの回数を増やしてみませんか」
- 2 「周りの人の目は気にしないで, もっと一人で外に出かけると良いですよ」
- 3 「L さんの好きな歌手のコンサートがあるので, 一緒に行きませんか」
- 4 「人とうまく会話できるよう, SST で練習しましょう」
- 5 「グループホームの利用に向けて, 具体的な計画を立ててみませんか」

問題 53 この場面で M 生活指導員がピアサポーターに期待した役割として, 適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 利用できる障害福祉サービスの内容を説明してもらう。
- 2 一人暮らしをするための技能を教示してもらう。
- 3 地域で暮らすことの大変さを具体的に話してもらう。
- 4 退所後のアパート暮らしが想像できるように語ってもらう。
- 5 施設で依存的な生活を続けられないよう諭してもらう。

問題 54 次の記述のうち, M 生活指導員がケア会議で出席者に提案した現時点での支援計画として, 適切なものを 2 つ選びなさい。

- 1 居宅介護事業者が, 家事に関わる援助を行う。
- 2 基幹相談支援センターが, 成年後見制度利用支援事業を開始する。
- 3 相談支援事業者が, 身近な日常生活の相談を担う。
- 4 就労移行支援事業者が, 就労に向けた訓練を行う。
- 5 生活保護の担当者が, 住宅入居等支援事業を開始する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

〔事 例〕

A 精神保健福祉士がキャンパスソーシャルワーカーとして勤務する Z 大学の地域で、震度 6 強の地震が発生した。Z 大学の構内には大きな被害がなく、地震発生当日から出勤可能な教職員による建造物の確認や、学生への連絡が始まった。A 精神保健福祉士も出勤可能であったため、日頃から相談を受けていた学生たちに連絡を取った。

(問題 55)

地震発生後 1 週間で大学は再開し、A 精神保健福祉士の所属する学生支援センターでは、学生の長期的支援の必要性からメンタルサポートチームを立ち上げた。チームは A 精神保健福祉士に加え、大学に籍を置く医師(精神科医)、保健師、臨床心理士がメンバーとなり、活動を開始した。(問題 56)

その後、A 精神保健福祉士は、地震前から欠席が多く、これまで支援してきた B さん(19 歳、男性)に連絡を取った。今回の地震により B さんと両親の住む自宅は半壊し、避難所に家族と一緒に身を寄せていた。面談は B さんと母親の希望もあり、避難所の空きスペースを使い、両親同席のもと行われた。B さんはやや疲れた様子であったが、現状を丁寧に話した。面談の中で、父親が被災前からうつ病を患っていたことが分かった。父親は職場の上司によるパワーハラスメントから病気を発症し、入院、休職した。退院後は通院し、服薬を継続していた。ところが今回の地震により、通院先だけでなく近隣の病院も被災し、医療が受けられず、薬が手に入らない状況である。B さんと母親は、最近眠れずに表情も乏しい父親を心配していた。父親は、「もうだめだ」「何も考えられない」と A 精神保健福祉士に言った。(問題 57)

問題 55 この時点の A 精神保健福祉士による対応として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 近隣のボランティアセンターで、ボランティア登録を行うよう促す。
- 2 防災計画を立案するため、被災時の状況について質問する。
- 3 不安や悲嘆感情を引き出しつつ、吐露できるようにする。
- 4 安全な生活環境を確保できているかを確認する。
- 5 地震により諸症状が悪化するため、カウンセリングを勧める。

問題 56 この時点の A 精神保健福祉士の対応として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 災害時であっても、学生の了解を得て情報を提供する。
- 2 主治医がいる学生への支援は、サポートチームの対象外とする。
- 3 被災した学生や教職員への医療行為も担う。
- 4 記録用紙は、精神保健福祉士が専用で使用していた様式を用いる。
- 5 アウトリーチ支援よりも、通学を再開した学生に対する支援を優先する。

問題 57 この時点の A 精神保健福祉士による対応として、適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 父親に大学へ相談に来るよう伝える。
- 2 避難所を担当している災害派遣精神医療チーム(DPAT)につなげる。
- 3 父親に労災認定請求の方法を教える。
- 4 家族全員で自宅に戻るよう促す。
- 5 避難所で B さんと母親に家族心理教育を行う。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Cさん(35歳、女性)は18歳で統合失調症を発症、入院を経験しながらも農業大学校卒業後、父が代表の農業法人で果実加工部門を担当している。4年前に農業高校教員と結婚、両親と同居し、1歳6か月の娘がいる。妊娠中から再発や育児と仕事の両立の不安を語っていたが、家族や通院先のD精神保健福祉士の支援のほか、母親教室で再会した高校時代の友人Eさんとの交流にも支えられてきた。

昨年4月父が急死し、その後外来受診が増えた。「育児にも仕事にもほとんど手がつかない」「あまり眠れないし、もう何もかも放り出したい」などと訴えるので、D精神保健福祉士は面接と訪問の回数を増やした。(問題 58)

昨年6月、「もう疲れた、休みたい」と任意入院したが、入院中に何度も面会に来てくれたEさんの支えもあり、9月には退院した。

農業法人は、今年4月から夫が代表を務めてくれることになり、Cさんは自分の将来について考えられるようになった。そんな時、病院を退職しソーシャルワーカー事務所を開業していたD精神保健福祉士からCさんとEさんにお茶会の誘いがあった。「子育ての悩みを話そう」というものだったので、二人は喜んで参加した。その場では、D精神保健福祉士も自身の子育てや仕事に関する悩みを打ち明けたので、CさんもEさんも日頃の思いを存分に話すことができた。D精神保健福祉士は、「自分たちと同じように、悩みがあっても相談できない親たちは多いだろう。父親も含めて、親たちが地域で気軽に交流できる緩やかなつながりを作りましょう」と二人に働きかけた。

(問題 59)

しかし、D精神保健福祉士は準備を続けるうちに、自分の立場が、専門職としての活動なのか当事者としての思いなのか戸惑い、相談したいと考えた。(問題 60)

問題 58 次のうち、D精神保健福祉士が用いたアプローチとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 問題解決アプローチ
- 2 行動変容アプローチ
- 3 心理社会的アプローチ
- 4 課題中心アプローチ
- 5 危機介入アプローチ

問題 59 次のうち、D精神保健福祉士が用いた方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニティ・ディベロップメント
- 2 コミュニティ・ビジネス
- 3 ソーシャル・ウェルフェア・プランニング
- 4 ソーシャルアクション
- 5 ソーシャルサポートネットワーク

問題 60 この時点のD精神保健福祉士が相談をする相手として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 農業法人の経営コンサルタント
- 2 以前に勤めていた病院の事務長
- 3 成年後見業務で連携している弁護士
- 4 職業選択に影響があった高校の恩師
- 5 元上司の精神保健福祉士

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 61 「精神保健福祉法」に規定されている入院に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神科病院の管理者は、精神障害者を入院させる場合、本人の同意に基づいて入院が行われるように努めなければならない。
- 2 任意入院は、精神保健指定医の診察により、24時間以内に限り退院を制限することができる。
- 3 医療保護入院は、本人の同意がなくても、家族等のうちいずれかの者の同意に基づき行われる。
- 4 医療保護入院は、患者に家族等がない場合、都道府県知事の同意により入院させることができる。
- 5 措置入院は、自傷他害のおそれがあると認めた場合、警察署長の権限により入院させることができる。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 62 精神保健福祉士法の規定に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 身体上又は精神上の障害のある者の介護を行う。
- 2 信用失墜行為の禁止の義務がある。
- 3 業務独占の国家資格である。
- 4 医療保護入院者等の行動制限の要否の判断を行う。
- 5 相談援助業務を行うに当たって主治医の指示を要する。

問題 63 障害者基本法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 施策の総合的かつ計画的な推進を図る目的で障害福祉計画が規定されている。
- 2 差別の禁止に関する規定は「障害者差別解消法」に伴い削除された。
- 3 判断能力に不安がある人の日常的な金銭管理を支援する事業が規定されている。
- 4 障害者を障害者政策委員会の委員に任命できると規定されている。
- 5 障害の定義に治療方法が確立していない疾病を含むことが明記されている。

(注) 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

問題 64 自立支援医療(精神通院医療)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「精神保健福祉法」に規定された制度である。
- 2 支給認定の申請窓口は、精神保健福祉センターである。
- 3 支給認定の要否を判定するのは、障害支援区分認定審査会である。
- 4 精神科訪問看護は、支給範囲の対象外である。
- 5 所得などに応じて、1か月当たりの利用者負担上限額が設定されている。

問題 65 発達障害者の支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害者支援センターは、全国の市町村に設置されている。
- 2 発達障害者支援センターは、看護師の配置が義務づけられている。
- 3 発達障害者支援センターは、子ども・若者育成支援推進法に基づき設置されている。
- 4 知的障害の認められる発達障害者は、療育手帳の対象となっている。
- 5 障害者基本法では、発達障害は知的障害に含まれている。

問題 66 Fさん(65歳, 女性)は, 統合失調症で精神科病院に長期入院していたが, 5年前に退院し, アパートで単身生活を送っている。2か月前に自宅の廊下で転倒してから, 立ち上がりや歩行が不安定となり, 入浴に一部介助が必要となった。さらに洗濯, 掃除などの家事を一人で行うことも厳しくなってきた。そこでFさんは, 精神科病院への定期通院時に病院のG精神保健福祉士に, 何か援助を受けることができないか相談した。

次のうち, 要介護認定の申請支援を行いながらG精神保健福祉士が提案したサービスとして, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 介護老人保健施設の利用
- 2 認知症対応型共同生活介護の利用
- 3 短期入所生活介護(ショートステイ)の利用
- 4 訪問介護(ホームヘルプ)の利用
- 5 療養介護の利用

問題 67 精神障害者への経済的な支援に関する次の記述のうち, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 障害状態が軽度で障害年金が受給できない場合, 特別障害給付金が支給される。
- 2 特別障害者手当の支給には, 所得による制限がある。
- 3 生活福祉資金貸付制度の申請窓口は, 都道府県社会福祉協議会である。
- 4 労働者災害補償保険において, 精神障害は認定の対象外となる。
- 5 障害基礎年金の受給要件を満たさない者は, 障害手当金が受給できる。

問題 68 精神障害者の生活支援に関わる民間組織や人材のうち, 社会福祉法に規定されているものとして, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 市町村社会福祉協議会
- 2 特定非営利活動法人
- 3 主任児童委員
- 4 保護司
- 5 民生委員

問題 69 精神保健参与員の役割に関する次の記述のうち, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 当初審判において, 精神障害者の保健や福祉に関する専門家の立場から意見を述べる。
- 2 入院処遇において, 対象者の権利や義務の説明を行う。
- 3 入院処遇において, 対象者の退院許可等に関する申立てを行う。
- 4 通院処遇において, ケア会議に出席する。
- 5 通院処遇において, 処遇終了や通院期間の延長に関する申立てを行う。

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題 70 から問題 72 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Hさん(46歳、男性)は25歳の時に統合失調症を発症し、数回入院した。その後、通院を続けてきたが、服薬を怠ることがあり、ときに症状の増悪が認められた。Hさんは高齢の母親を頼って二人暮らしをしていた。時折万引き行為をしたが、今までは服役したことはなかった。43歳の時の窃盗により、実刑判決を受けて服役することとなった。

受刑開始後、保護観察所による生活環境の調整が行われたところ、Hさんの引受人は母親とされていたが、その後しばらくして、母親は他界してしまった。母親の他に身寄りはなく、また、Hさんの状態から、刑事施設から出た後に直ちに就労することは困難と考えられ、住込み就労を目指すことはできないと思われた。そこで、刑事施設は、Hさんを特別調整の候補者に選定し、その刑事施設の所在する都道府県にあるU保護観察所に連絡をした。U保護観察所の長は、保護観察官にHさんの状況を確認させた結果、特別調整の対象とする必要があると考え、V組織に協力を依頼した。

(問題 70)

V組織の担当者は、刑事施設でHさんと面談を重ねて、刑事施設から出た後の希望を丁寧に聞き取った。そして、U保護観察所に依頼して必要な書面を取り寄せるなどしつつ、希望に沿った生活ができるよう、相談支援事業者や市町村の担当窓口には、必要な対応をするよう求めた。そして、関係者が連携して調整をした結果、Hさんは刑事施設から出た後に、生活保護を受けながらアパートで単身生活をする事ができるめどが立った。

その後しばらくして、地方更生保護委員会は、Hさんに対して、刑期満了を待たずして、地域で一定の制約の下、生活をする事を認めた。(問題 71)

刑事施設から出た後のHさんは、通院をしながら、精神科デイケアにも通い、対人関係がスムーズになった。その後、Hさんは、犯歴を承知で雇用する旨を保護観察所に登録しているJさんの経営する会社に雇用され、配送準備の仕事に就き、現在も継続して就労している。(問題 72)

問題 70 次のうち、V組織として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 障害者権利擁護センター
- 2 精神保健福祉センター
- 3 基幹相談支援センター
- 4 地域包括支援センター
- 5 地域生活定着支援センター

問題 71 次のうち、Hさんの退所の形態として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 仮退院
- 2 仮出場
- 3 仮釈放
- 4 刑の執行停止
- 5 刑の一部執行猶予

問題 72 次のうち、Jさんの役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 民生委員
- 2 協力雇用主
- 3 保護司
- 4 福祉活動専門員
- 5 雇用指導官

精神障害者の生活支援システム

問題 73 「障害者虐待防止法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 虐待の種別は、身体的虐待、心理的虐待、放棄・放置、性的虐待の4類型であると規定されている。
- 2 障害者手帳を取得していない障害者は対象外である。
- 3 養護者による虐待を受けたと思われる18歳以上の障害者を発見した者は、市町村に通報しなければならない。
- 4 相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指すことを目的としている。
- 5 障害者及び養護者への相談等の窓口として、市町村に障害者権利擁護センターが設置された。

(注) 「障害者虐待防止法」とは、「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」のことである。

問題 74 「障害者総合支援法」に基づく地域定着支援を活用した居住支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 指定特定相談支援事業者が実施する。
- 2 障害福祉サービスの体験的な利用支援を行う。
- 3 利用期間は6か月以内と規定されている。
- 4 グループホームや宿泊型自立訓練の利用者は対象外である。
- 5 障害者専門支援員が担当する。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 75 精神障害者の就労支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援(A型)は、雇用契約の締結による就労機会を提供する。
- 2 就労継続支援(B型)は、利用期間を定めている。
- 3 地域障害者職業センターは、市町村に1か所ずつ設置されている。
- 4 「障害者総合支援法」は、障害者雇用率を定めている。
- 5 障害者就業・生活支援センターは、事業主に障害者雇用率達成指導を行う。

問題 76 次のうち、市町村の精神保健福祉業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科救急医療体制の整備
- 2 医療保護入院の入院届の受理
- 3 措置入院の定期病状報告の受理
- 4 精神障害者保健福祉手帳の申請受理
- 5 患者の移送に関する調査

問題 77 次のうち、保健所の精神保健福祉業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者のサービス等利用計画の作成
- 2 精神障害者に対する訪問指導
- 3 精神障害者に対する職場適応訓練
- 4 精神障害者に対する日常生活自立支援事業
- 5 精神障害者の障害支援区分の認定

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。

〔事 例〕

K さん(38 歳、女性)は、大学を卒業後に I T 企業で勤務。5 年前に対人関係のトラブルから抑うつと希死念慮が出現し、W 精神科病院を受診したところ、うつ病と診断され、短期間ではあるが入院した。K さんは退院後、通院を続け抑うつはほぼ消失したが、気力が続かず、疲れやすく、働き続ける自信をなくして退職し、自宅でひきこもりがちな生活をしていた。

2 年前に、同じ W 精神科病院に入院していた人が就労したと知ったことから、「自分も仕事がしたい」と就職に興味を持ち、W 精神科病院の L 精神保健福祉士に相談をした。面談を通じて、K さんは一般企業での就労を希望していること、体力は低下しているが症状は落ち着いていること、I T の技術もあることが分かった。L 精神保健福祉士は、一定期間の訓練後には K さんが一般企業への就労も可能であると考え、近隣の X 機関を紹介した。X 機関では M 精神保健福祉士が個別支援計画を作成し、K さんの利用が始まった。(問題 78)

K さんが X 機関を 1 年利用した後、K さんと M 精神保健福祉士の間で今後の方向性が話し合われた。K さんは、「私もそろそろ一般企業で I T の技術を生かして働きたいと思っています。ただ、病気のことを理解した上で職務内容を調整してくれる職場で働きたいのですが」と語った。M 精神保健福祉士は、法律に定められた障害者向けの雇用制度があることを説明した。その後、K さんと M 精神保健福祉士は、障害者向けの求人^{あつせん}を斡旋している公共の Y 機関を訪れた。Y 機関では、A 担当者が対応した。(問題 79)

A 担当者は、K さんに I T 企業を斡旋した。その I T 企業は K さんを障害者雇用率に算定して雇用することにした。(問題 80)

問題 78 次のうち、K さんが利用した X 機関として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 障害者職業能力開発校
- 2 就労継続支援(B 型)事業所
- 3 就労移行支援事業所
- 4 障害者職業総合センター
- 5 地域活動支援センター

問題 79 次のうち、A 担当者の職の名称として、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 障害者職業カウンセラー
- 2 障害者職業生活相談員
- 3 サービス管理責任者
- 4 生活支援員
- 5 精神障害者雇用トータルサポーター

問題 80 次のうち、A 担当者が K さんに I T 企業を斡旋する前に確かめたこととして、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 障害基礎年金の受給
- 2 精神障害者保健福祉手帳の所持
- 3 ストレスチェックへの回答
- 4 サービス等利用計画の作成
- 5 障害支援区分の認定